

人口の動向

◆国の人口動向

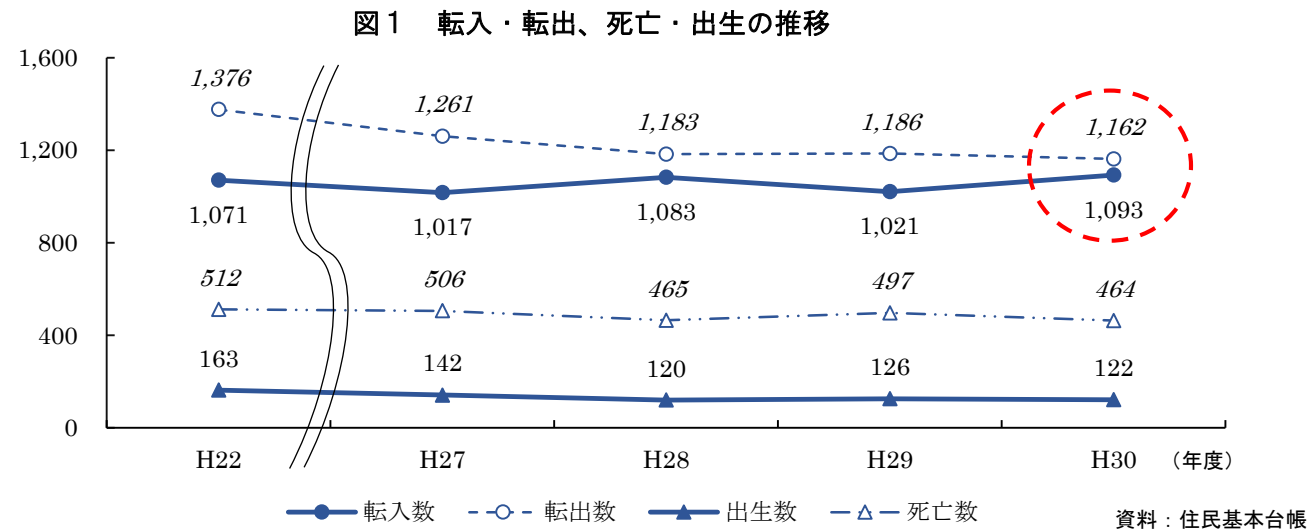
我が国の人口は、H20年をピークに減少局面に入っており、H27年からH30年までに66万人減少している。H26～H30年までに、生産年齢人口は240万人、出生数は8.6万人減少するなど、人口減少・少子高齢化は依然として深刻な状況にある。

また、東京圏への一極集中の流れは変わっておらず、特に若年層と言われる15～19歳で2万7千人、20～29歳で9万9千人とあわせて12万人を超える東京圏への転入超過が生じている。

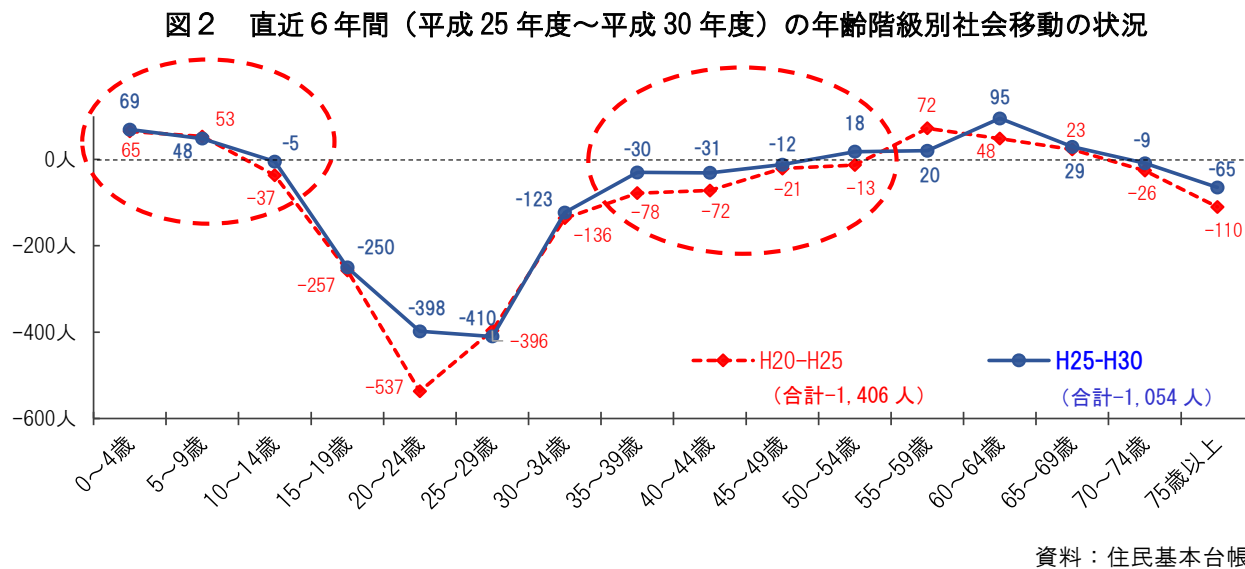
◆伊豆市の人口動向

伊豆市の総人口は、H22年に34,202人、H27年に31,317人、R1年に29,262人となっており、近年では毎年500前後の人口減少が続いている。一方で、下記のとおり社会移動に改善が見られている。

・出生・死亡による自然動態の減少幅は同程度で推移しているものの、**転入・転出による社会移動は、H22年度▲305人⇒H30年度▲69人と大きく改善している。**



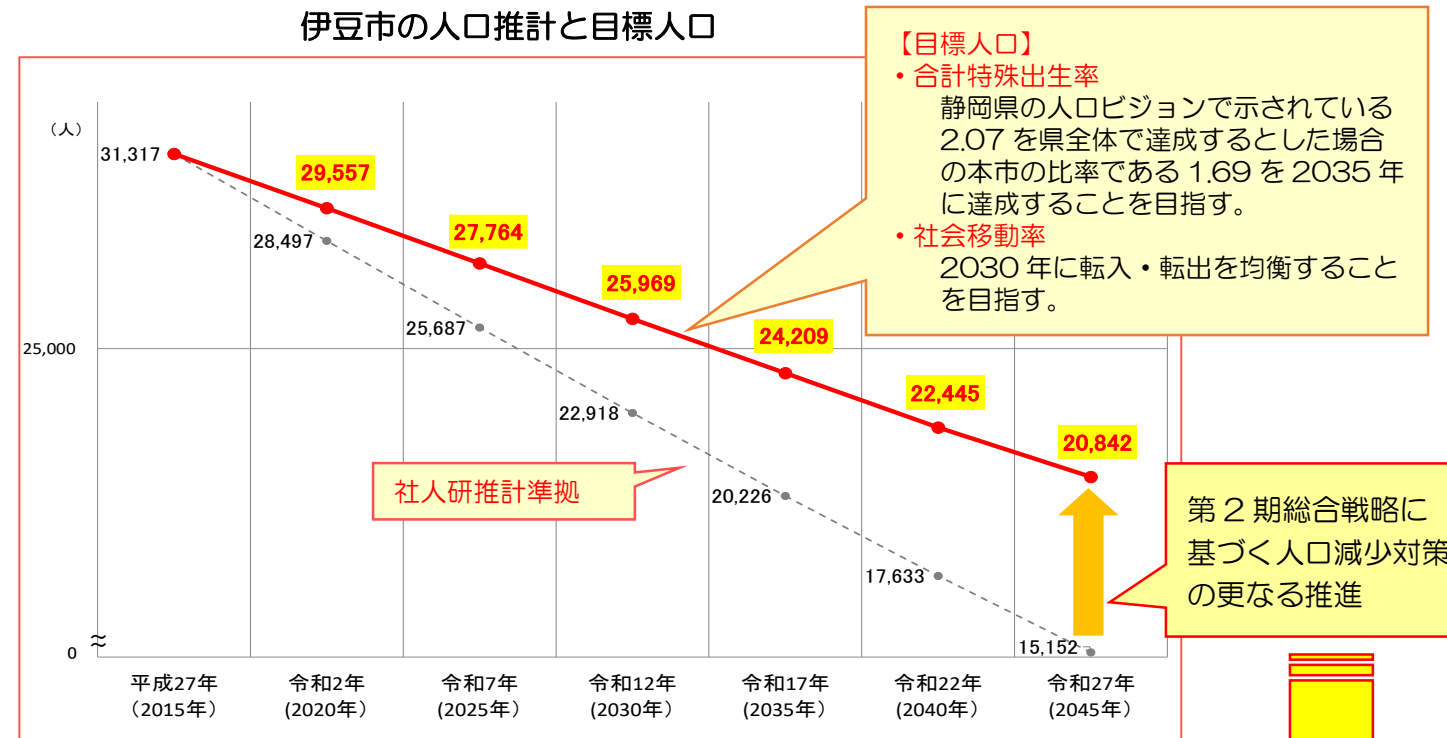
・近年では、**0～14歳、35～54歳の社会移動が増加。第1期総合戦略期間中の若者定住施策等の効果もあり、子育て世帯の社会移動に改善が見られる。**



伊豆市における人口の中長期的展望

伊豆市の目指すべき将来の姿

2040年（令和22年）に約23,000人
2045年（令和27年）に約21,000人 の人口を目標とする。



【高齢化率（人口に占める65歳以上人口の割合）の見通し】

高齢化率は、現在の傾向が継続する場合（社人研推計）、2045年に60.3%まで上昇するが、目標人口を達成した場合42.9%に留めることができる。

<目指すべき将来の方向性>

◎雇用の場の確保とまちのにぎわいづくりに向けた仕事の創出

観光産業を中心とする市内産業の振興を図り、若い世代が安心して働ける良質な雇用の場を確保するとともに、まちのにぎわいづくりに向けた起業等を推進する。

◎移住定住の促進と子育て支援、教育環境の充実

人口流出の歯止めと人口流入の増加を図るため、移住・定住に向けた仕事や住まいなどの総合的な情報発信を行うとともに、若い世代が希望する子育て支援と教育環境を充実させる施策を推進する。

◎個性豊かで活力に満ちた地域社会の形成

都市機能の集約や集落の中心となる地域への拠点の整備などにより、住みよい地域づくりを進め、住み慣れた地域で人々が希望や誇りを持って暮らし続けるための施策を推進する。また、多様な主体による協働と連携を推進する。